公民館を訪ねて

泰澄大師の昔より　えにしゆかしき大安寺

― 知ろう学ぼう継ごう自然と歴史の町 ―

大安寺公民館

1. 大安寺地区の概要

(1) 地区の紹介

【上空から見た大安寺地区】

福井市街から北西に約８㎞。ゆったりと流れる九頭竜川と萬松山の山並みに囲まれた自然豊かな地域である。

昭和３２年の町村合併により、上区と呼ばれた南楢原、北楢原、田ノ谷、四十谷、岸水、天菅生が福井市に合併して、昭和４８年に団地造成が始まり、田ノ谷新町、四十谷新町第一・第二の３町が増え、昭和５３年には南楢原に県営住宅団地に入居が始まり、現在の１０町の自治会となった。

古くは紙すきや撚糸と織物が盛んであったが、現在はリサイクル紙の製紙工場が１軒あるのみである。また、当地区内には温泉施設が１ヶ所、病院が２か所あり、稲作を中心とした農業もおこなっているが、農地面積がさほど広くないことから、兼業農家で勤労者世帯が多い。

令和５年１２月末現在で、世帯数：４１３世帯、人口：１，０９３人（男５３６人、女５５７人）となっている。

(2) わがまちの名称「大安寺」の由来

この地には、奈良時代に「越の大徳」と呼ばれた泰澄により、創設されたと伝えられる「竜王山田谷寺」が存在し、坊舎が４８坊もあるほど栄えていた。しかし、天正２年(1574 年)に織田信長の越前侵攻により全山が焼失した。

万治２年(1658 年)、この跡地に第４代福井藩主松平光通公が、松平家歴代の廟所として「大安禅寺」を創建した。奥まった山腹には、千畳敷と呼ばれる歴代藩主の墓所のほかに幕末の歌人「橘曙覧」の墓碑や、種痘の神様「笠原白翁」の墓がある。わが町の名は、この松平家菩提寺の「大安禅寺」に由来する。

2. 公民館の活動

(1) 大安寺っ子 くらぶ

これまで、子どもの育成に関する事業は各種団体が個々に進めていたが、行事の日程が重なり、子どもの取り合いになってしまうことが少なくなかった。

そこで、学校・PTA・育成会・公民館が「連携」することで、相互に足りない部分を補い活動を進めていくことを目的として、平成１６年４月に子ども教室実施団体として「大安寺っ子くらぶ」が設立された。子ども達にとっても、各種事業がスムーズに行われるだけでなく、楽しくのびのびとした活動ができ、子どもの成長にも良い影響を与えていると考える。２０年が経過した今日、役員の世代交代や子どもの人数が減ってきていることが活動を進めていく上で、大きな課題となっている。

(2) さつまいも掘り体験

毎年、小学校低学年の親子が５月中旬にさつまいもの苗を２００本植え、１０月中旬に芋掘り体験をしている。

当日は大きく育ったさつまいもに、あちらこちらで子どもの歓声が上がり、楽しいひと時をみんなで過ごしている。収穫のあと、熱々の焼きいもでたくさんの笑顔が見られる。

【親子さつまいも掘り】

⑶ そば打ち体験

健康食でもある「そば」のそば打ち体験を毎年行っており、近年は男性だけでなく女性にも参加してもらい健康教室の輪を広げている。また、そば打ちの道具を揃えたので、そば打ち体験学習として子ども達にも参加してもらい、地域の交流事業として広げていきたい。

【そば打ち体験】

⑷ イルミネーションでの交流の場づくり

公民館を地域の交流の場として広く周知してもらう働きかけとして、クリスマス用のイルミネーションの装飾を計画し、「大安寺っ子くらぶ」の役員に呼びかけ、平成２１年度より実施している。１１月中旬に飾りつけ作業を行いクリスマスまで点灯をしている。

始めた頃は、親子連れが２０～３０名程度であったが、年を重ねていくうちに、親子連れだけでなく地区の方々も来てくれるようになり、毎年１００名程度の参加者で賑わっている。全員で声を合わせてのカウントダウンは夜空に響き、イルミネーションが点灯し闇夜に輝いた。コーンスープで身体が温まる頃には会話も弾み、楽しいひと時を過ごしている。

【大安寺公民館のイルミネーション】

子どもの事業にとどまらず、このイルミネーション点灯による交流の場づくりが、公民館事業や地区事業への参加にひと役を買っているといえる。今後も交流の場として継続しながら、地域の行事として位置付けていきたい。

3. 地区の事業

⑴ 花いっぱい運動

福井での国体開催をきっかけに、公民館の周りやすかっとランド九頭竜の前の花壇を整備し、植栽活動を継続して行っている。これまでは、大安寺地区住みよい町づくり委員会が春から夏にかけて植栽活動を行い、水やりや草むしりなど活動を進めてきたが、令和５年度に発足したシニアチャレンジ応援団の参加もあって、秋にはネモフィラやクリムソンクローバーの種まきをした。今後は、１年を通じて大安寺地区を通る人の目を楽しませ、地区内外に発信していきたい。

【すかっとランド九頭竜前花壇の植栽活動】

4. 終わりに

これまで行ってきた各事業への目的やねらいについては、その時々の状況に応じて、多少変わることもあるが、基本的に地域への理解と人との繋がりやふれあう心を大切にして、今後の活動を進めていきたいと考えている。